

基地跡地利用計画の計画方針（基本理念）に係る意見のまとめ

【計画方針1】“次の朝霞づくり”のためのシンボルとなる拠点づくり

	①“次の朝霞づくり”のために必要とされる機能 (緑の拠点・レクリエーション、生涯学習、男女協働社会、健康社会、子育て社会、都市文化創造社会、安全安心・防災機能、高齢社会対応など)	②基地跡地で展開する営み・活動	③シンボルとなる景観・光景
1	<p>まちの中心は昔から城や教会等、時の権力者の建物が構えていた。朝霞では 16.4ha もの自然地がまちの中心に有り、21 世紀の環境都市のシンボルとして世界に誇れる空間である。この空間をレクリエーション、教育フィールド、文化イベントの場等、様々な利用を市民が主体的に活用する事で、より魅力度を上げていきたい。</p>	<p>当該地区でも、創造性・ワクワク感のあるイメージのまちづくりを期待したい。</p>	<p>今後もケヤキを守っていく。</p>
2	<p>そのエリアが持つ求心力の強さこそが、まちの中心を構成すると考えている。即ち、人・物・金・そして情報が求心的に集まり融合するエリアがまちの中心ということになる。</p> <p>而して、どの様な求心力ある機能の集積が図れるか。その求心力こそがシンボルということになる。シンボルというとハードなイメージを持たれるが、むしろ重要なのは個性的な特色ある機能にあると考えている。</p> <p>シンボルという捉え方ではなく、むしろコンセプト(まちづくりの開発理念)として整理した方が分かりやすい気がしている。</p> <p>秋葉原駅前再開発では私も当初からコアメンバーとして関与したが、ここでは、まずどの様なまちとしてここを再生すべきかが真剣に議論された。その結果以下のようなコンセプトが導き出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュービジネスクリエイティブタウン(ビジネス創造市場) ・ 都の青果市場 跡地が再開発対象地区であったため、市場という表現が使われた。 ・秋葉原シリコンバレー ・ 野心家(クリエイター)の集うまち ・我が国の IT 戦略を牽引する秋葉原 等 <p>我が国を牽引するクリエイターが集まり新たな産業を創造してくれるようなシリコンバレーのようなまちを指向した訳である。</p> <p>本件プロジェクトは、国有地の譲り受けにあることを考えると、国の施策(第3の矢)に資するコンセプトメイクも必要ではなかろうか。</p>	<p>市民まつり（花火を含めた）を継続させていく。</p>	<p>公園には現在残っている米兵舎の活用</p>
3	<p>市民が集まり自然と親しめる場所</p> <p>以前公共用地に定めた 2 h a の活用（市民会館など複合施設）</p>	<p>中心地で上げられる花火会場</p>	<p>現在の跡地そのものがケヤキ並木と一体となった貴重な環境資源であり、シンボルとなるものと思います。ほかの委員からのご発言にもありましたが、シンボルとなるような「ハコもの」を作るとのアプローチには違和感があります。</p>
4	<p>裨益する者（訴求対象）は先ずは周辺に居住・就業されている方々や市役所などの公共施設を訪れ・利用する市民の方々ですが、詳細計画のなかでは近隣の方にも魅力あるものになるような工夫が必要です。</p>	<p>周辺施設を考えると、イメージ的には文化的な香りを持ち安らぎ・憩いを与える地域として整備されるとよいように思います。また、周辺の既存施設の事業活動も、跡地を有効活用する（フィールドとしての利用など）との観点で、見直し・拡充が可能ではないでしょうか。</p>	<p>季節ものですが、会議でも言及のあったサクラは近隣を含め集客効果が大きい資源です。</p>
5	<p>2008 年に策定された「朝霞市基地跡地利用計画書」で提案されている「新しい生活拠点(シビックコア)づくり」については見直しが必要。時代を考えれば貴重な跡地に大規模なハコモノを作る状況にない。複合公共施設に入るとされた市役所、市民会館は移転新築ではなく、耐震補強で改修することが決定している。更にハローワークについても単独での移転が検討されている。複合公共施設の計画については撤回し、予定地 2 ㍍については隣接する「朝霞の森」3 ㍍と合わせ、公園とすることが財政等を考えれば現実的な選択である。</p>	<p>現在使用されている「朝霞の森」で毎月開催されるプレーパークには多くの子どもたちや保護者の方などが自然の中で冒険遊びや昔遊びなどを楽しんでいる。自然観察会や昆虫採集、草樹木の手入れなども頻繁に行われ、保育園の野外保育として多くの園が利用。幼児から大人までが自然を学び、育て、遊び、憩い、交流する場になっている。残り 16.4 ㍍が活用できれば、季節ごとに新緑や紅葉を愛でたり、野鳥を楽しむ探鳥会、紅葉に中でのコンサートや秋祭りなど市外からもさらにお客様をお呼びできるだろう。</p>	<p>シンボルは無いよりあった方が良いが、財政面も考慮すると現在の青葉台公園その他周辺の公共施設、そして市の木でありますケヤキ並木がある訳でありますから、これらを利用し、市民が自然と足を向ける場所、誇りになるような場所のイメージ作りが良いのではないかと</p>

	①“次の朝霞づくり”のために必要とされる機能 (緑の拠点・レクリエーション、生涯学習、男女協働社会、健康社会、子育て社会、都市文化創造社会、安全安心・防災機能、高齢社会対応など)	②基地跡地で展開する営み・活動	③シンボルとなる景観・光景
6	市民が協力してつくるまち いろいろな技術や知恵・力をもっている方々がたくさんいるはず	バリアフリー ベンチや休憩できるスペース お祭り・花火・みどり・特産品	現存する貴重な樹木を跡地の中心部に低木、中木、高木を種別に分類し、園内の東西、南北に計画された通路から観察でき、さらには園の中に湧水池や温室等を設置し、珍しい植物が1年を通して観賞できる施設を造る。
7	災害時要介護者、身内の方が安心できる、避難施設が有る	従来の静的なイメージの公園ではなく、緑を残しながらも、いろいろな形で、多くの人々がこの空間の価値を幅広く享受できるような、フレキシブルな空間としていくことを目指すべきである。	東京近郊でこれだけ広大な広葉樹林の森は貴重な存在である。自然に再生されつつある森には44種3588本の樹木が朝霞市の調査で確認されている。そこには希少種の植生や多くの鳥類、昆虫類も生息していることが判明している。黒目川と朝霞基地跡地の自然は朝霞の財産とわかっていい。次世代に引き継ぎたいまちのシンボルである。
8	<p>地理的にいえば、朝霞駅南口に広がる市街地の中心に基地跡地が位置するが、北朝霞駅・朝霞台駅周辺や朝霞駅東口方面の居住者からみれば基地跡地を、簡単に“まちの中心”と位置づけ、多額の公共投資を行うことに異論をもつ人々もいるだろう。</p> <p>“まちの中心”として認知できるような空間形成が必要だと感じる。つまり、この基地跡地の利用によって、基地跡地周辺の居住者だけでなく、朝霞市全体の市民にとって価値ある空間である必要がある。</p> <p>単に朝霞市民のみならず市外の人々にとっても価値ある空間として利用されることが望ましい。その意味で、跡地の大部分を公園として利用することに、基本的には異論はない。</p> <p>当然のことながら、大規模災害等を想定して、必要な防災機能を付加した空間として整備することが公共の福祉にも合致していくと考える。</p>	<p>まちのシンボルという観点で考えれば、一つには、朝霞市を代表する景観を備えたものにすることが必要だと思われる。現状では、黒目川と、基地跡地周辺の公共空間を、対外的にも誇れる空間としていくために、市と市民が協力してシンボライズしていく努力をするべきだ。</p> <p>この2か所があるが故に、朝霞市のイメージが各段にあがるといったように、重点的投資(単に財政的な投資だけでなく)を行うことについて、大方の市民の理解を得られるようにしていかなければならない。</p>	朝霞出身、在住、ゆかりのあるアーティストの方のモニュメント (学生さんの協力をえられると、手作り感、自分たちのまち作りの意識ができてよい。)
9	<p>まちの中心</p> <p>①「憩いと交流の拠点」としての中心。 市民だけでなく、市外からも訪れる魅力が必要。</p> <p>②「緑のネットワークの拠点」としての中心。 現状保存ではなく、保全と利用のバランスを考える必要がある。</p> <p>③「朝霞ブランドの代表」としての中心。 朝霞市の新たな観光スポット、住みやすさの象徴として、シティセールスの一翼を担う場所に育てることが大切。</p>		<p>基地跡地の森そのものが朝霞市のシンボル。</p> <p>朝霞市は年々緑が減少している。そんな中、周辺のマンション屋上から見ると基地跡地は見事な森が形成されている。基地返還後約40年たつて自然に形成された樹林の価値は大きい。次世代に残すべきまさに朝霞の財産だと思う。周辺に学校、図書館、公民館の施設などがあり、緑と文化の街として広くアピールできるのではないかな。</p>
10			<p>靖国神社、千鳥ヶ淵に代わる、戦没者慰霊碑が有る</p> <p>山桜だけで3472本が咲き乱れる、樹木葬墓地が有る。</p> <p>親子3代で来て、楽しく遊べる施設が有る公園が有る</p>
11			<p>シンボル</p> <p>①昔＝地域の「歴史」のシンボル。 軍事利用から平和利用を象徴する場として、次代に基地のまちの歴史を伝える。</p> <p>②今＝地域の「緑の保全・再生」のシンボル。 自然の再生力の象徴であり、今後は、市民力による森づくりに発展することを期待。</p> <p>③未来＝地域の「文化の創造・発信」のシンボル。 周辺の公共施設との連携を高め、多様な主体・世代間の交流によって、新たな地域文化が生まれる拠点として、市民が誇り、来訪者が憧れる場所になることが理想。</p>

【計画方針2】豊かな自然・地域資源と歴史を受け継ぎ、そこに市民の意も意をこめて次の世代に継承

	①受け継ぐべき自然・地域資源、歴史	②そこに籠めるべき、現在の市民の思い	③引き継ぐに際しての留意点
1	<p>都市では見る事の出来ない、いくつかのタイプの自然を作り出し、その育成を通じて自然への関心を高め、学習すべきである。極相林、二次林、草原、水辺空間等、植物と昆虫、鳥等の動物との環境を作り上げたい。</p> <p>日本では近代の遺産がないがしろにされていたが、一部活用して歴史を継承する装置を作り、長く学習の場とする。</p>	<p>中央公園や青葉台公園などを含めれば約 50 ㍊の広大な広さがある。大音響を出しても周囲から苦情などの発生は少ない。彩夏祭でも大音響で踊るよさこい鳴子踊りのメイン会場となっている。春や秋に屋外コンサート会場にして若者からシニアまで参加し、楽しめるこんな利用も考えられる。</p> <p>当面の活用方法として、まず基地跡地にまず市民が自由にできるようにしたい。土壌汚染などの問題もあるので跡地内に残っている東西道路を解放し、道路だけでも散策できるようになったら市民の関心度も大いに増すだろう。跡地内の既設道路を土日は駐車場として活用も図れるようにしたい。</p>	<p>当該地区を魅力化できる地域資源とは何か。私は、広い森林公園や行政施設の集積とともに、ベッドタウンとして集積されているであろう市内の優秀な人材(潜在的クリエイター)にも注目したい。</p> <p>こうした知識資源をどの様に活用するも、検討の価値ありと考えている。</p> <p>森林公園活用の一例</p> <ul style="list-style-type: none"> 造園業や植木屋さんの育成ステージとして荒れた森林を活用。全国を対象に庭園づくりコンペを行っても良いかもしれない。 森林公園の木々一本一本にスポンサーを募り、この公園に、より深い愛着を持ってもらうという方法もあろう。植樹は有名人に限定されているが、誰でもが参加できる植樹(又は育樹)公園のイメージである。 <p>クリエイター育成の一例</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉では若いクリエイターが集まり、カマコンパレーを組織し新たなビジネスを創造しようとしており、こうした活動が域外からも注目されている。 また、ビジネス展開を指向しているご婦人を積極支援している処もある。 <p>歴史に関しては、基地跡地を、何のために、誰に対して、どのようにアピールしようとしているのかの整理(過去の議論)が必要。基地跡地としての残骸をメモリアルアートのような形で修復し、歴史的資源として公園内に配置するのの一法と考える。但し、コストとの見合いになる。</p>
2	<p>最近ではペットとの共生・家族化が進んでおり、こうした傾向に対応すべく CT や MRI 等の高度医療を装備した総合病院も増えつつある。</p> <p>こうした医療施設と森林公園とを組み合わせれば広域的集客施設となろう。</p> <p>知の生産拠点でもある学校や研究所のような機能にも魅力を感じている。</p> <p>こうした機能誘致に多くの自治体が注力しているが、朝霞市では?</p> <p>研究施設では周辺環境としての緑を好むところも多い。</p>	<p>野戦病院施設が有ったとの事なので、あまり基地跡の施設は残して欲しくありません。</p>	<p>跡地としての歴史は分かる形にしておくべきと思いますが、米軍基地時代の残存施設のすべてを保存・展示するべきかどうかは、やや迷うところがあります。委員発言にありましたが、米軍基地から始めるのではなく、そのまえから今に至る歴史を示すとよいのかもしれない。</p>
3	<p>公園だけでなく、市民はもちろん他市の方も来れるようなイベント会場や施設を作り、人の集まる場所づくり</p> <p>米軍基地であったというものを残したい。</p>	<p>朝霞基地跡地利用計画市民懇談会から 2006 年 11 月 16 日付けで提案された「基地跡地利用に関する市民懇談会の 7 つの提案」も 4 つの基本理念に沿った具体的提案がなされている。ぜひこの提案についても再度、光を当ててほしいと願います。</p>	<p>歴史を伝えるという事も必要ではないか、現在計画する場所が米軍基地跡地であったというイメージを残す必要があるのではないか。例を出すと所沢の航空公園に飛行機を置いて、航空発祥の地としてのイメージ作りをしている事も参考にして良いのでは。</p>
4	<p>広沢の池を含めて、一部民間の用地を確保して、朝霞中央公園と一体利用を市、文化財を活かして歴史を伝達すると共に、水と緑豊かな潤いの場所を作る。</p>		<p>また、人々が集まり、楽しむことを助長する装置として、例えば、レストランやオープンカフェなどの商業的施設も、公園機能を助長するものとして意図的に配置すべきだと考えている。</p> <p>その中に、この土地がたどった歴史を示す展示や掲示物があってもよいと思うが、基本的には、未来志向で、この空間をつくっていくべきだと考える。</p>
5	<p>跡地は(やや大げさに言えば)ニューヨークにおけるセントラルパークのような価値を持っていると個人的には感じており、朝霞の価値を大きく高めうる地域資源・資産です。</p>		<p>今後は、緑の保全に配慮しながら、「利用価値」を高めるためのハード・ソフトの取組が重要。</p>
6	<p>武蔵野台地に残る樹木を選定し、外来種と区分して整然と移植する。特に、高木、中木は、可能な限り現状保存に努めるとともに、これらには、案内銘板等を設置し、木の名称、原産国名などを表示する。</p>		<p>今後は、武蔵野の森とは異なる独自の植生であることをふまえつつ、自然公園のような現状保存ではなく、緑の「質」を豊かにし、来場者が豊かさを享受できるよう、緑の目標像、保全活用方針、ゾーニングが必要と考える。</p>

	①受け継ぐべき自然・地域資源、歴史	②そこに籠めるべき、現在の市民の想い	③引き継ぐに際しての留意点
7	<p>今年の2月「市民が集めた朝霞の歴史展」～米軍基地があった時代～を中央公民館で開催したところ、1週間で2回の大雪に見舞われながらも神奈川や東京からの来場者も含め1200人以上が熱心に見学に訪れた。当時の貴重な写真や証言も集められ展示された。映像「キャンプ・ドレイクがあった頃」や米軍が進駐した朝霞のまちの風俗やくらしを描いた紙芝居は連日大好評であった。これらの展示を常時展示される場所がほしいと多くの来場者から要望があった。近代史を伝える場所が朝霞にはない。基地跡地を利用した近代史を学べる歴史資料館などがあれば、後世にここに陸軍被服廠があり、米軍基地があったことを伝えることができる。学校教育、社会教育の場とした利用価値もある。</p>		<p>構想段階ではなく詳細事業計画レベルでの話になりますが、鳥類に関しては、跡地が渡り鳥の重要な経路地になっている可能性があります。また、オオタカは営巣しているかもしれないので注意が必要です。</p> <p>林が暗いので大丈夫と思いますが、林床のラン類も気を付けておく必要があります。なお、造園関連では、「水の流れ」があると魅力が増します。</p>
8	<p>【豊かな地域資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○四季を通じて人が集まる場所 <ul style="list-style-type: none"> ・樹木・花・作物など ○催し物 <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験・収穫・食べる ○自然のを学べる場所 ○自然の中で遊べる場所 <p>【歴史】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○戦争・基地の歴史を学べる場所 <ul style="list-style-type: none"> ・現存するものの保存 ・資料館（名前は、スタイリッシュに） 大人から子どもまで学べる、子どもには、体験型（クイズや触れるもの） 		
9	<p>朝霞市には基地があり市民の生活があった。基地の歴史を知らない人々が増えている現状、記録にとどめ語り継いでいかなければならない。今年1月に行った「市民が集めた朝霞の歴史展」には大雪にもかかわらず1000人を超える来場者があった。記録は時間との闘いである。</p>		
10	<p>古木、山桜3472本は伐採せず、保護する(桜の寿命は200年ないですが) 朝霞の特産品ニンジン等でのレシピを考える--- 市民からレシピ募集(ニンジンレシピコンテスト)</p>		
11	<p>首都隣接の衛生都市の多くでは、やはり開発が進むことで、豊かな自然空間が衰退してきていることは否めない。</p> <p>朝霞の基地跡地に形成された緑の空間の価値は高いと言える。しかしながら、専門家の意見にもあるように、この空間も、必要に応じて人の手を加え、守り、育てる努力をしなければ、いずれ衰退してしまうおそれがある。</p> <p>仮に、人の手を入れない土地がどのような自然サイクルをたどるかを見極めるということコンセプトとするエリアをつくるにしても、それは、限定的な空間であるべきである。</p> <p>“新たな武蔵野の森”あるいは“武蔵野の再生”というキャッチフレーズで、里山的な平地林の再生を目指す空間と手つかずのサンクチュアリ空間と、やはり人々が集い、遊び、楽しむ空間としての広場、そして、静かな木陰をバランスよく提供していくことが必要だと考える。</p>		
12	<p>豊かな地域資源 広さ 市街地内の緑地、オープンスペース(空地)としての「存在価値」は高い(延焼防止、避難場所などの防災機能、ヒートアイランド減少の緩和などの環境調節機能、大規模イベントが可能な多目的スペースの確保など)。</p>		
13	<p>緑 市街地内に残る緑の「量」としては豊かかと考える。</p>		
14	<p>緑の(マスとしての緑に加え)質での分類と計画への反映を図るべきとの指摘は重要と感じました。自然環境の変化(遷移)を朝霞のような都市地域で実感できる機会は極めて限られているので。</p>		

【計画方針3】周辺の公共施設との連携、有効活用による多彩な魅力と価値の創造

	①周辺の公共施設と一体化することで生み出される新たな魅力と価値	②新たな活動、付加価値型の活動
1	みどり、自然だけではまちの中心にならず、公共施設や商業施設の連携が重要である。休日、その他の日に駐車場を融通しあうとか、公共施設内に民間の施設の導入等、活性化を考えたい。	そうした施策と施設連携のイメージ化の中で、具体的有効活用方策が浮き出で来るのではなからるか。さすれば、関係者目線での具体的検討(場所の提供・資金支援・規制緩和等)も考えやすくなるような気がする。
2	公共施設との連携については、どのような施設・機能連携が考えられるかかのイメージ作りが必要。そこには、行政施策との有機的結合が不可欠である。	複合施設を作り、文化活動の拠点としての活用
3	防災公園として他施設との連携	周辺の公共施設の連携をとるのはもちろん、今回の計画される場所からペDESTリアンデッキ等を作り(歩車道分離)一体化を図ることも必要ではないか
4	事業用地に公共施設、市庁舎、市民会館、既存のコミュニティセンター、図書館等を一体化し、PFI方式や民間企業の協力を得て、行政の財政負担を軽くできる方式を考え、その建物が街のシンボルとして、一般市民もいつでも楽しく利用できる施設ができれば良いと思います。	<p>2008年に策定された「朝霞市基地跡地利用計画書」p8で提案されている「基本方針3」「市民のための新しい生活拠点(シビックコア)の形成に向けて」「周辺に立地している公共施設を持つ機能の有期的連携を目指す」方針は取り下げる事。ここでいう「新しい生活拠点(シビックコア)の形成」とは国家公務員宿舎と複合公共施設を指している。二つの計画は破たんしている。これを除いて新たにどのような周辺の公共施設との連携及び公共施設の有効活用を考えるが課題である。</p> <p>周辺には県や市が経営する高齢者施設、保健所、税務署、陸上競技場、野球場、体育館、図書館、公民館など多数の施設がある。イベントなどの多い土日、祭日などは駐車場が足りない。例えば保健所や税務署などの駐車場を土日、祭日は開放したら余分な駐車場を新設する必要はない。更にバスなどの公共機関の積極的活用を図ることも必要だ。一部整備されている自転車専用道を跡地にも広げ、自然に優しいまちづくりのモデルにしたらどうだろうか</p> <p>業務施設用地1.3畧の使い道も今回しっかり見直しする必要がある。この地は住宅地に隣接していることから高さ制限はしっかりできているが、業務系施設でよいのか議論が必要。特にこの地にハローワークの移転計画が生じていることも見直しの要因である。消防署の訓練場のあり方や市役所建て替え時の代替え地との声も議会から聞こえてくる。整理が必要である。例えば、郵便局前の跡地については商店街の共通駐車場で暫定利用することなど柔軟な発想があってもいいのではないか。</p>
5	既存施設のうち、プラネタリウムや図書館との連携は重要に感じました。プラネタリウム以外の施設も含めた事業の見直し・拡充が必要なことは上記1-2)のとおりです。	学校が朝霞第4小学校、第八小学校、第1中学校、第4中学校、朝霞高校、朝霞西高校と学校が集中している。環境教育活動に基地跡地の森の活用が期待される。
6	跡地の周辺には、教育、スポーツ、福祉等の施設があります。これらの施設が、それぞれ目的に応じ勉強や研究の場として活用できるよう整備し、さらには、憩いの場、休息の場として利用できるようにする。また、これらの利用団体には、環境保全など施設管理の一部を依頼する。	<p>朝霞特産品が食事出来るレストランー災害時バリアフリーの要介護者専用避難所にする。</p> <p>ビオトークを作り、市立小、中学校生に管理して貰い、生物生態の観察、ボランティアを募集ー管理願います。</p>
7	公園の朝霞の森、青葉台公園、中央公園とそれぞれが特色と機能を持ち市民に活用されている。朝霞の森はプレーパークを中心にした活動が生き生きと展開され、また、保育園児からお年寄りまで幅広い層の活用されている。運営も市民と行政が協働して行っている。この方式は樹林の整備にも行かされると思う。	<p>公共施設は、個々の施設の性格により、市内全域に適正配置すべきものと拠点化。集約化すべきものがある。</p> <p>基地跡地及び周辺の公共空間は、まとめれば50ヘクタールを超える。これらの公共空間は、多数の人々をひきつける仕組みとなる。基地跡地の利用においては、これら公共空間の利用者・来訪者を、公園へと誘導する工夫が必要だと考える。</p> <p>近い将来、周辺公共施設の老朽化に対応することが求められる際には、当然、基地跡地の公園部分との連携を念頭に置いて、公共空間を再構成する試みを行わなければならないと考える。</p> <p>朝霞駅南口に広がる市街地の活性化を図る意味からも、民間の積極的な参加を促すなかで、基地跡地の利用がこの地域のまちづくりに有益に作用するような全体構想も考慮していきたい。</p> <p>基地跡地の利用で心掛けるべきは、基地跡地限定の閉鎖的な発想ではなく、基地跡地を地域に開く発想で、跡地の整備がまちの発展・形成に貢献するものでなければ、大方の市民の理解は得られないのではないかと考える。</p>
8	図書館横の基地跡地を緑陰図書館として活用する要望書が朝霞市に提出されている。朝霞市の図書館は先進的な図書館として他市からの視察があるほどだが、更に基地跡地の活用によって、特色ある図書館となると思う。公民館もサークルの活動に基地跡地と連携できるのではないか。	将来的には、様々な施設・団体の連携協力により、基地跡地発祥の活動・文化が生まれることを期待。施設間のアクセスを改善し、「ついで立ち寄り」機会を増やすため、基地跡地公園内に徒歩・自転車用の東西南北の骨格となる基幹園路と周遊園路が必要と考える。
9	現在の基地跡地は、周辺の公共施設を分断する存在。今後は、各公共施設の「前庭」として活用していくことが重要。各施設の活動が互いを刺激しあって、文化、教育、福祉、スポーツなど、様々な活動が日常的に基地跡地で展開されることが各施設の有機的ネットワークの形成につながる。	

【計画方針4】市民の願いとなる実現可能な計画づくり

	①財政的に投資可能な計画	②経費捻出のプログラムの想定
1	<p>今回の国有地購入で、市民の理解を得られそうなマキシマムの金額(財政規模の何%、1人当たりの税負担での目線)をどの程度の規模と想定すべきか。</p> <p>財政負担については、初期投資だけではなく運営コストも厳格に想定しておかないと、付けを後世に回すことになる。</p> <p>想定される業態ごとに収益性を算定して、どの様な業態を優先的に導入すべきかを考えると判断がしやすくなると思う。</p> <p>トータルの考えとして、国から譲り受ける対象地区(19.4ha)については、土地代を含めた場合と含めない場合の事業採算計画を想定し、少なくとも運営採算が(後者)マイナスにならないよう、またマイナスとならざるを得ない場合も、何処まで許容出来るかを念頭に事業計画を作り込んで行くことで、公益事業が過度に膨れ上がらないように大枠を嵌めておくことも必要と感じている。</p>	<p>公園内に魅力ある収益施設(例:レストラン、小売店)を設け、入り込みの増大を図り運営費を捻出する。公園施設の容積率を近接する施設に与えることで費用が捻出できないか。今までの公共施設とは違う複合的施設を設けられないか。</p>
2	<p>以前策定した利用計画を中心にした計画を立てていただきたい。</p> <p>公園としてお金を取るというのは大変難しいと思うが、一部の用地を利用し、イベント(野外)や市民会館をつくり、文化その他人の集まるイベントをすることで市の活性化につながる。</p>	<p>現在の区割りを、収益ゾーンと非収益ゾーンといった視点で見直す必要も出てこよう。</p> <p>19.4haを対象とした都市経営的(プロジェクトマネー的)考え方での取り組みである。PFI等の手法で、民間事業者に知恵を求めることも必要であろう。</p>
3	<p>都市計画により、地区計画決定したことを大切に、公園用地の確保はすべき。公園内にも、行きたくなる、憩いの場所となる施設を作るとよいと思います。</p>	<p>管理問題については、いわゆる「指定管理者制度」が活用できないでしょうか。あるいは、抽象的ですが、市民と一体となった管理体制の構築を売り物にしても良いかもしれません。</p> <p>業務内容は限定されるかもしれませんが、「雇用の場を創出する」との視点もあってよいと思います。</p> <p>収益性のある施設例としては、地元の特産品を活用した洒落たレストランや地元農産物を直売する「道の駅」のようなものが馴染むように思います。</p>
4	<p>財政負担などの面からの実現可能性を検証することは重要と思います。</p> <p>跡地事業のなかでの収支バランスを考えるのではなく、(定性的ではあっても)周辺地域への効果も同時に考えることが重要ではないでしょうか。具体的には、跡地に面したオフィスやマンションなどが「パーク・ビュー」を理由として付加価値が上がることを期待するものです。</p> <p>事業費については、年次計画を工夫することで、単年度ごとの財政負担の平準化や中期的な視点に立った事業整備(平たく言うと「時間をかける」ということです)にすることも良いと思います。</p>	<p>収支面においても維持管理費にあたる部分を利用者に負担して頂くことも検討し、この計画により市の財政を圧迫しない事が一番大切ではないか</p>
5	<p>今回の計画に対して一番大切な事であり、財政的にどの程度の予算で取り組む計画なのか又は計画によっては県・国の制度をうまく活用することも考えに入れなければならないと思います。</p>	<p>資金確保の一方策として、例えば、市民要望にも多く出ている高度医療が扱える医療センターや、民営の各種研究機関への用地誘致を行うなど、当面の整備資金の確保に努めるとともに、さらに、周辺には、来園者の休息施設(レストラン等)なども考えられる。</p>
6	<p>跡地19.4haの購入財源をどうするかがまず基本である。公園などなら時価の1/3の負担。建物など事業用地なら時価。道路は無料。1ha20億円として試算するとすべて公園としてもざっと129億円。複合公共施設2haだけでも40億円も必要になる。土地代に100億円もつぎ込むことはもったいない。市の財政も許さないだろう。</p> <p>市民の立場から言えば、土地の所有形態は国有地でも県有地、市有地の如何を問わず、市民がある程度自由に使えればいい。市有地として高い買い物をする必要は全くない。東京・日比谷公園のような国有地の「無償貸し付け」で市の財政支出をおさえることがまずもって重要である。「無償貸し付け」の障がいとなるものは作らないことを明確にすべきである。</p> <p>公園整備には極力お金を掛けないこと。いまあるフェンスを外す位だけでいい。50年、100年単位で公園を育てる位でいい。公園の維持管理は今の「朝霞の森運営委員会」がひとつのモデルになるだろう。市民参加で維持管理をしていけるならランニングコストも多くは要しないで済む。</p> <p>公園の集客効果がまちの活性化につながるのではないか。現在、基地跡地周辺を利用した大イベントは彩夏祭だけだが、春の新緑祭りや秋の紅葉まつりなど企画し、コンサートや踊り、スポーツ大会、B級グルメなど周辺施設と組み合わせた大規模なイベントなども企画できる。昨年開催したJCの埼玉ブロック大会などもいい例である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ゾーニングの資料のようなかたちで ○複数のゾーンが、スタイリッシュに共存する形 ○建物は、2階の高さくらいまで ○レストラン・資料館(歴史・文化を学ぶ建物) ○駐車場は、有料に <ul style="list-style-type: none"> ☆既存の駐車場も、一部は有料に ○テニスコートを利用する方が、駐車場を占領している傾向あり ○朝霞駅からの道順を、指示 ○朝霞駅中の店舗の方の協力を要請し、まちづくりに協力してもらう ○案内所があるのが理想的であるが ○朝霞の特産品が買える、食べられるところ ○休憩・喫茶コーナー ○朝霞出身のアーティストの作品、その他(障害者の方の作品など)が買えるところ

	①財政的に投資可能な計画	②経費捻出のプログラムの想定
7	<p>「公園・シンボルロード」整備基本計画を基本とし、基地跡地の樹木の整備を市民と行政が協働で行う。斜面林の整備を環境市民会議が行っているように。</p> <p>基地跡地の中に箱物を作ってそこから収益を上げるのではなく、樹木の整備をすることで人が集まるようにする。園路は既にある道路を活かすなど、整備にかかる費用を出来るだけ省く。</p>	<p>100～200年運営可能な収入可能な施設を作る</p> <p>樹木葬(市民優先)のみの公園墓地を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏様は朝霞の山桜に生まれ変わる ・墓石は一切設置不可 ・植樹は山桜か市花つつじ ・一基70万前後 <p>パークゴルフ場を造り、多くの大会を計画し他県より人を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導、運営は公益社団法人日本パークゴルフ協会に相談する ・市民利用者には格安にする <p>アスレチック(幼児から遊べる遊戯が沢山ある)公園—低価格で有料とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参拝家族、レストラン利用者の利用で平日売上を見込む ・保育所、幼稚園児には、1枚/月無料券を保育所、幼稚園から配布して貰う ・3児以上の家族は無料とする
8	<p>基地跡地の公園部分の財務省の処分条件は、3分の1時価売り払い、3分の2無償貸与である。道路部分は、譲与又は無償貸し付け、その他事業用地は時価売り払いである。</p> <p>公園として利用する部分については、全面無償貸し付けとするように要望は繰り返してしているが、国の財政状況等を考えれば、こうした要望が受け入れられる余地は現状ないと思われる。</p> <p>要望は要望として継続していくにしても、基地跡地の利用を具体的に進めるには、国の処分条件を基礎として計画を立てざるを得ないのが現実である。土地の取得費だけで100億円を優に超える費用が必要となる。一部補助金の活用が見込まれるが、分割取得をするにしても、起債を活用するにしても、長期間にわたって、市民が負担していくことには変わりはない。</p> <p>加えて、なるべく経費をかけない整備手法や維持管理手法を取るにしても、それぞれの経費も市民の負担となる。</p>	<p>基地跡地公園内で、野外コンサート、森のレストラン、フリーマーケットや朝市の設置・開催などにより使用料収入を得ることで、公園の維持管理費を確保する取り組みは、公園魅力向上とともに財源確保の上で必須と考える。ただし、一般的にこれらの収入は維持管理費の一部をまかなう程度の場合が多く、維持管理費のかからない公園整備をあらかじめ考えることが重要。</p> <p>都市公園法第5条により、公園管理者(朝霞市)以外の第三者に公園施設を設置・管理させることが可能であり、一定の区画を決めてコンペを行うなど、民間活力を活用した施設の整備・管理を検討する必要があると考える。</p>
9	<p>樹木管理については、「朝霞の森」の運営委員会の取り組みを拡充し、市民主体の森づくりを持続的に行うことで、維持管理費の低減にもつながると思われる。</p> <p>用地取得費は基地跡地公園の事業のみでは回収困難であると考えられ、基地跡地周辺あるいは市全体の財政運営の中で資力確保を計画的に行うことが不可欠。例えば第4小学校跡地を定期借地などで民間活用を図り、そこから得られる借地料、税金などの全部又は一部を基地跡地基金に積み立てることなどが考えられる。</p>	

※いただいたご意見は原文のまま記載しています。(なお、箇条書きにするため一部接続詞等を省略しております。)